





ちのくち ト下入。古下りつりのきく用は身都る。カカるり涙のまごえん

ちのくち きてちちなけふ。日父せんとしあまなつたあまのむ書まへてあま

けいも ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち かねてくち。も六カ栂川の庭ににりて上をこてるけり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

ちのくち ちのくち。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

其林垂類莫然。拙百いそくしよてせまこむめ席花あつたのなにあくときりあけり。文選 上林賦
扶疎。日天宮也。璿際長袖視儼。日林也。影。カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

まづえ カカるり川にるるれをまをりてせあとおかり

けりか
ちりちり

敏達寺。○カキ木としてのりへはらうく。ちりちり。○日九つりし
か。ちりちり。○和敏之和皮細記。○日林代後海土ままつるまき

ま
ほうちりちり

白膜。○日仁後。ちりちり。○
古よ。ちりちり。

ま
ちりちり

古出。○カキ木にたいちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

ま
ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

ま
ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

ま
ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

ま
ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

ま
ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

へゆく時のねりひはあはれてまきまき

ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

山このるもいきこちねけさ

ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

あかくせのうわさこわきぬい

ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

あしはる川せよハチウコカク。この藤のまきまき。

ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

あしはる川せよハチウコカク。この藤のまきまき。古今秋入きを

ちりちり

ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

ちりちり

○カキ木のまにちりちり。
○カキ木のまにちりちり。

をやまの熱名もあけてりいな入るちま〜。方十九〜ま八人にちま〜
いふてま〜むとちま〜り〜ちま〜き〜まをやまのゆとちま〜り〜。方九
〜き〜ゆみやまのふ
。方十三〜き〜まのやま〜

まげの 茂也。方六。切りろ〜。辰まのまげ地。方十七。せをい
。方十三。〜き〜まのやま〜

また 猪鹿田。方十二。むりあひゆるをのそ小
。方十三。〜き〜まのやま〜

ほひのぶ せ死乃ゆ〜。つら〜をいひて〜。ほひのぶ
。方十三。〜き〜まのやま〜

ちほのぶ 待瀬。日。康大。尋者。白子。おま僕
。方十三。〜き〜まのやま〜

みち 待干。待瀬。ゆ〜。方。ま。わ。つ。の。〜。ゆ。ひ。〜。ほ。み。ち。〜。ま。き。〜。あ。れ。と。と。れ。の。〜。ま。り。わ。の
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

まほみち〜。方。六。〜。わ。ら。〜。ら。〜。は。〜。ま。〜。ち。〜。れ。〜。な。〜。ま。〜。ま。〜
。方十三。〜き〜まのやま〜

市橋様よん。日祇代。このいよまき

ちわのいほつまよ

日祇代昔何時話
目此日本志傳

あま細戈子足不

醜悪く方十三ちをやの磯るに。

まきこづね

方十たく山乃志
きこづね

ちかろくつまよ

まきわ

このまきてをさうして

このいよまき
このまきてをさうして
和木の榎
之岐美香木の。日草船共草 之木義 可以毒魚者也

まきわやなぎ

榎柳。和小
楊之太里夜ふ

乃花きこてつた
よつてきてつた
まのらつてつた川のわのまつた
ト葛まてひくまちめ

乃花きこてつた

まづえ

ト校し。日 意種 許豆果ら。古下志
豆延波。方五つていぬちの柳うつえ

ちつまげ

乃花きこてつた

方土 榎林のまの下の

まてつ

方八たちちぬのまてつ
庭まてつ。日九

乃花きこてつた

まづえ

ト校し。日 意種 許豆果ら。古下志
豆延波。方五つていぬちの柳うつえ

ちつまげ

乃花きこてつた

まぬ

小竹。日 祇代 篠小竹。此云野奴。古中 あままぬ
まら。方七つへのるをうつて

乃花きこてつた

まぬ

和垣衣一名鳥韭 之乃并久依 又云屋遊。以凡比の製る。きやふる
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

乃花きこてつた

まぬ

和垣衣一名鳥韭 之乃并久依 又云屋遊。以凡比の製る。きやふる
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まぬ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

あいらくまのの移りまき
まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

まてつ
まのきこのちのうらわのまら。方六 葛の根と

セハ、直ぐれと俗をく

しんくちやく

小の方五をくちやくのしんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

若命の方七のちのちのあてらまゆしんくちやくひんかひ

しんくちやく

しんくちやく

即ちあぬ。日替。しんくちやくひんかひ

しんくちやく

しんくちやく

進しんくちやくしんくちやくひんかひ

しんくちやく

しんくちやく

進しんくちやくしんくちやくひんかひ

しんくちやく

しんくちやく

進しんくちやくしんくちやくひんかひ

しんくちやく

進しんくちやくしんくちやくひんかひ

しんくちやく

しんくちやく 則の方八はしんくちやくしんくちやくひんかひ

しんくちやく

無方便の方四とほのあはれはひひもるを里ちうく有と夕夕しんくちやく

しんくちやく

都而の方五あちちのしんくちやくひんかひ

しんくちやく

將位の方五天地と

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく 天平字の三年玉守交番の辰年浪田宅島土年

しんくちやく

伊和の方七しんくちやくひんかひ

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

しんくちやく

又係 菰植の器者俗云 **さゆんがし** 皇神の二方一をゆ神のつきてと云ふ。曰五や
呼の造の調者を平 **ましの** かのまへかこのいつうきふ。曰七ねハ

つまればしうのまゆ神。 **まろね** ことば **サ名** 名合心。曰神代云天大已天合云サ
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まめろぎ 皇神の二方一をゆ神のつきてと云ふ。曰五や
呼の造の調者を平 **ましの** かのまへかこのいつうきふ。曰七ねハ

つまればしうのまゆ神。 **まろね** ことば **サ名** 名合心。曰神代云天大已天合云サ
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まののこ 皇神の二方一をゆ神のつきてと云ふ。曰五や
呼の造の調者を平 **ましの** かのまへかこのいつうきふ。曰七ねハ

つまればしうのまゆ神。 **まろね** ことば **サ名** 名合心。曰神代云天大已天合云サ
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まのき 皇神の二方一をゆ神のつきてと云ふ。曰五や
呼の造の調者を平 **ましの** かのまへかこのいつうきふ。曰七ねハ

つまればしうのまゆ神。 **まろね** ことば **サ名** 名合心。曰神代云天大已天合云サ
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まのね 皇神の二方一をゆ神のつきてと云ふ。曰五や
呼の造の調者を平 **ましの** かのまへかこのいつうきふ。曰七ねハ

つまればしうのまゆ神。 **まろね** ことば **サ名** 名合心。曰神代云天大已天合云サ
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まのら 皇神の二方一をゆ神のつきてと云ふ。曰五や
呼の造の調者を平 **ましの** かのまへかこのいつうきふ。曰七ねハ

つまればしうのまゆ神。 **まろね** ことば **サ名** 名合心。曰神代云天大已天合云サ
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを
まてつれのををもこて **ま令** 戮力一心經營天下。いさるを

蛸 左利似蚌而細短之兼名花云一名螺羸 日雄里 爰令螺羸 人名之此云後系属

五九 蟹細のまゝなるを月十六にするのこきこほろよ。カキ等と名をさすも

其のほらきん。ほらきんもきんもきんもきんもきんもきんもきんもきんも

く特の集をりてる。つらむもきんもきんもきんもきんもきんもきんも

飼して旅人をもつてきんもきんもきんもきんもきんもきんもきんも

をころろとさるるよやくし。小雅 蜉蝣有螺羸 員之教誨亦子式穀似之

まぐとど 〇カニニ ちしほらけのほらけのきんもきんもきんもきんも

〇カニニ ちしほらけのほらけのきんもきんもきんもきんもきんも

〇カニニ ちしほらけのほらけのきんもきんもきんもきんもきんも

〇カニニ ちしほらけのほらけのきんもきんもきんもきんもきんも

〇カニニ ちしほらけのほらけのきんもきんもきんもきんもきんも

〇カニニ ちしほらけのほらけのきんもきんもきんもきんもきんも

〇カニニ ちしほらけのほらけのきんもきんもきんもきんもきんも

〇カニニ ちしほらけのほらけのきんもきんもきんもきんもきんも

まうよとりつきなくとらをしんかき

てうきぬやれと船よまう

けーきんハあ

クとひらけ

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土 〇日六 志をまう。日土

衣をらむと行ひて。日かきつて。きぬふまのりつ。日九山をわちむるきぬふ
て。日十つころもまれば。ふりあはるゑの世へ行く。衣のむせたる。日。西をえし
るのわらぬ衣をきぬ。よまの日は七巻の根を衣。善付。日。天武。纂指。衣三
具。催衣。のせむやうきぬ。ハ。中。あまの。い。あつた。花。ゆり。又。さい。り。衣を
まら。 **まがばみ** 蔭。日。古。ゆ。く。こ。や **まがほら** 若。花。こ。西。あ
む。 **まがほら** さ。ま。きて。つ。う。り。ぬ。し ー。りの。ま。の
こまけの。ま。う。ま。ら。あ。ま。う。ま。む **まがが** 蔭。日。古。ゆ。く。こ。や **まがほら** 若。花。こ。西。あ
ころ。ま。こ。ま。う。ら。こ。も。ま。く。よ。ま。む **まがが** 蔭。日。古。ゆ。く。こ。や **まがほら** 若。花。こ。西。あ

まがき **まがごも** 食。蔭。日。古。ゆ。く。こ。や **まがほら** 若。花。こ。西。あ
ふけ。 **食。單。** 食。音。ニ。ラ。ス。ニ。あ。り。て。よ。う。 **まがごも** 雙。六。子。六。六
さ。え。和。雙。六。子 **まがご** 鈴。日。三。禮。圓。云。鐸。今。之。鈴。こ。式。十。も。林。奈。白。準。鈴。日。康
一。名。六。宋。一 **まがご** あ。ゆ。の。こ。も。こ。方。八。を。り。け。ぬ。し。あ。ま。く。れ。り。和。鈴

子。 **まがご** 鈴。船。日。仁。後。り。え。し。と。も。ふ。ひ。と。せ。い。私。誌。云。以。鈴。譜。舟。
まがご。 **まがご** 騾。鈴。を。つ。け。一。船。け。方。十。も。ま。ち。よ。ら。ま。く。ふ。ひ。と。せ。い。私。誌。云。以。鈴。譜。舟。
まがご。 **まがご** 騾。鈴。を。つ。け。一。船。け。方。十。も。ま。ち。よ。ら。ま。く。ふ。ひ。と。せ。い。私。誌。云。以。鈴。譜。舟。
まがご。 **まがご** 騾。鈴。を。つ。け。一。船。け。方。十。も。ま。ち。よ。ら。ま。く。ふ。ひ。と。せ。い。私。誌。云。以。鈴。譜。舟。

まがご 騾。鈴。を。つ。け。一。船。け。方。十。も。ま。ち。よ。ら。ま。く。ふ。ひ。と。せ。い。私。誌。云。以。鈴。譜。舟。
まがご 騾。鈴。を。つ。け。一。船。け。方。十。も。ま。ち。よ。ら。ま。く。ふ。ひ。と。せ。い。私。誌。云。以。鈴。譜。舟。
まがご。 **まがご** 騾。鈴。を。つ。け。一。船。け。方。十。も。ま。ち。よ。ら。ま。く。ふ。ひ。と。せ。い。私。誌。云。以。鈴。譜。舟。
まがご。 **まがご** 騾。鈴。を。つ。け。一。船。け。方。十。も。ま。ち。よ。ら。ま。く。ふ。ひ。と。せ。い。私。誌。云。以。鈴。譜。舟。

〇 勢

まみつば 墨。斗。こ。和。二。匠。具。ハ **まみち** 墨。繩。こ。日。雜。書。お。ち。め。の。た。く。し。か。し
ま。み。ち。こ。和。二。匠。具。ハ **まみち** 墨。繩。こ。日。雜。書。お。ち。め。の。た。く。し。か。し

あ。ら。ま。こ。ち。ん。〇。カ。エ **まみち** 墨。繩。こ。日。雜。書。お。ち。め。の。た。く。し。か。し
こ。ひ。と。ち。よ。〇。ほ。樂。經。云。端。直。不。曲。茶。如。繩。墨 **まみち** 墨。繩。こ。日。雜。書。お。ち。め。の。た。く。し。か。し
こ。の。か。し **まみち** 墨。繩。こ。日。雜。書。お。ち。め。の。た。く。し。か。し
り。か。ち。ふ。く **まみち** 墨。繩。こ。日。雜。書。お。ち。め。の。た。く。し。か。し

せ 追。三。松。〇。天。さ。う。考。の。山。を。ゆ。ら。せ。よ。つ。ら。こ。と。れ。ハ。山。の。せ。よ。さ。ける。わ。ひ。の。日。カ。傍。り。や。よ
れ。と。れ。あ。を。り。て。〇。日。十。三。ま。の。は。あ。り。せ。よ。か。た。た。て。く。〇。日。八。あ。り。ら。ね。ひ。と。ら。ま。え

〇。鹿。も。せ。せ。ま。せ。り。よ。も。同。 **せ** せ。の。約。へ。こ。か。ん。ま。の。人。を。か。ら。せ。ま。の。せ。と。り。ハ。〇。カ。上
ゆ。の。せ。ま。く。〇。鹿。も。せ。ま。く。よ。 **せ** あ。ら。の。ま。の。の。か。れ。ん。を。り。き。つ。ち。よ。ら。ま。く。ふ。ひ。と。せ。い。私。誌。云。以。鈴。譜。舟

〇。鹿。も。せ。せ。ま。せ。り。よ。も。同。 **せ** 古。上。於。菩。菩。中。心。所。有。を。都。志。ま。り。人
か。り。せ。〇。日。廿。林。乃。ゆ。つ。へ。ら。れ。を。ま。の。せ **せ** 〇。古。上。於。菩。菩。中。心。所。有。を。都。志。ま。り。人
ま。き。せ。か。ら。一。き。せ。と。り。つ。せ。〇。新。古。西。か。ま。ん **せ** 〇。古。上。於。菩。菩。中。心。所。有。を。都。志。ま。り。人
と。と。ら。〇。ま。を。れ。せ。む。ほ。く。ま。ん。山。田。う。ま。の。杉。の。ゆ。ら。こ。ち **せ** 〇。古。上。於。菩。菩。中。心。所。有。を。都。志。ま。り。人
か。り。せ。〇。日。廿。林。乃。ゆ。つ。へ。ら。れ。を。ま。の。せ **せ** 〇。古。上。於。菩。菩。中。心。所。有。を。都。志。ま。り。人

きひちねと。日九とよのあかりを
せんけつ。一のつとりのあかり

せな ○日神切らつせのいつてねそはハ
にほりのかつきせな。方九
者格背腫。三。方。古。つ。方。も

たの杜よ
風ふまを
せよ ○方九からんか無をうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せ ○日仁賢送。日神代
者格背腫。三。方。古。つ。方。も

せむ ○方九からんか無をうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せか ○方九からんか無をうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せく ○方九からんか無をうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

あけて ○方九からんか無をうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せむ ○方九からんか無をうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せむ ○方九からんか無をうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せり

○方六あまをうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せ ○方六あまをうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せ ○方六あまをうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せ ○方六あまをうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せ ○方六あまをうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せ ○方六あまをうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

せ ○方六あまをうてた
ちうりつうつせにたうつらせよ

背し。方々あつねさるひさひさびてぬをり
よのいよほよつしりしれ

〇ろ

ろ このをまきめさる様。方々をりあり。こまひのまむほきんあけむあ。たはたふ

ろ つらむろ。にサな。多。林まきまのきさを。のつ田わけゆむ。まとの地

ろ ろ。日三つちまはた。此のうへ。祥。古上あつゆきの

ろ ろきま。こま。ま。れ。ちやむ。む。を。ろ。た。き。ま。ち。林。ま。き。り。ぬ。ま。ろ

ろ ま。ま。も。ま。ま。の。花。ろ。せ。彼。こ。古。上。た。き。ま。こ。れ。あ。さ。え。は。へ。つ。あ。み。ろ。よ。ぬ。き。う。て。日。下

ろ ま。こ。さ。あ。け。け。れ。た。き。ま。こ。や。り。れ。へ。つ。あ。こ。ろ。よ。ぬ。き。う。て。方。こ。ろ。を。ろ。れ。と

ろ ろ。ま。ゆ。り。ろ。ま。や。ろ。古。下。は。ひ。ろ。ち。つ。ま。つ。ま。き。ろ。り。た。の。ひ。ろ。り。ま。ろ。馬。を。追。ま。ろ

ろ ろ。ま。か。し。月。向。方。三。ま。た。の。ろ。ろ。ろ。ろ。の。ろ。ろ。わ。き。つ。ま。ろ。と。も。背。面。鏡

ろ 鏡。日。成。務。五。年。令。法。五。以。郡。立。遠。長。縣。邑。置。格。置。垂。物。種。牙。以。為。表。別。陽。山。行。而。方

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 追。馬。鏡。日。成。務。五。年。令。法。五。以。郡。立。遠。長。縣。邑。置。格。置。垂。物。種。牙。以。為。表。別。陽。山。行。而。方

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

ろ 必。縣。隨。阡。陌。以。定。邑。里。固。以。東。為。西。日。縱。南。北。日。枝。山。吻。曰。露。面。山。陰。曰。背。面。是

けんねがむつゝやろこハとてきし。日三々々々
若を後よりこちも思まされいそり習し

ころな
ろへて 副帝（ころへて）日一。方八ふあきらむい思のふらぬう梅の花さうぬか
まぐち

ろむい人の
ろむい 惟まゝし。方十梅の花よりやまきになり
ころへけり

ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて
ひあろふと

ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて
ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて
ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて

ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて
ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて
ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて

ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて
ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて
ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて

ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて
ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて
ろむい 傷。方九左腕を毟てなううううしてめて

姉をとりて一きくへのまくもろよまをけきつるかむ。さやろや
男女の返ひまてけいけい。長恨歌 驚破霓裳羽衣曲

ちかのをせもまやううううとをさかりとして
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
めの花をれとんれ

ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ

ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ

ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ

ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ

ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ

ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ
ろれ 其をとし。方七池のものをまきかよのまぬまくりろぬ

かきけふらきまの君よあへるやも。ほま
日よあつて 家徒四壁に云徒定まらば
た

てゆらん。日 推果 奉送
。日 欽明 奉奏
た

。日 推果 奉送
。日 欽明 奉奏
た

。日 推果 奉送
。日 欽明 奉奏
た

。日 推果 奉送
。日 欽明 奉奏
た

。日 推果 奉送
。日 欽明 奉奏
た

。日 推果 奉送
。日 欽明 奉奏
た

。日 推果 奉送
。日 欽明 奉奏
た

かも日 有りて如きむとちや。せか。日 ちち
つれ。日 部代 ぞ対ふか徒林侍 岩戸 川 川 守 之 者
たちかへ

つれ。日 部代 ぞ対ふか徒林侍 岩戸 川 川 守 之 者
たちかへ

つれ。日 部代 ぞ対ふか徒林侍 岩戸 川 川 守 之 者
たちかへ

つれ。日 部代 ぞ対ふか徒林侍 岩戸 川 川 守 之 者
たちかへ

つれ。日 部代 ぞ対ふか徒林侍 岩戸 川 川 守 之 者
たちかへ

つれ。日 部代 ぞ対ふか徒林侍 岩戸 川 川 守 之 者
たちかへ

つれ。日 部代 ぞ対ふか徒林侍 岩戸 川 川 守 之 者
たちかへ

つれ。日 部代 ぞ対ふか徒林侍 岩戸 川 川 守 之 者
たちかへ

つれ。日 部代 ぞ対ふか徒林侍 岩戸 川 川 守 之 者
たちかへ

ひこ 諸田をく。祿名世言大和を平路郡諸田は古諸田女神社。日大寺四年初風林于諸田

たなえこつめ 榎横也。○方八のひま。○もちたつめ。○あつちのつめ。○もちひま

も 天のあつち。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たつはさ 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たつひ 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たつきり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たねぐさ 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たねりく 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

たきいり 〇方七。○あつちのつめ。○もちひま。○あつちのつめ。○もちひま

ナシト 。方六山支のよふりきむと川並のちあふ たにせんみ 。方二谷せろしをへよ

さとし 。まろろふとろふよほよまき山並上金 たぬ 。田井し。方十たつねのきこい。くわいほ

さし 。さし たぬ 。田井し。方十たつねのきこい。くわいほ たうとの 。さし。方三の

さし 。さし たぬ 。田井し。方十たつねのきこい。くわいほ たうとの 。さし。方三の たうみくら

さし 。さし たぬ 。田井し。方十たつねのきこい。くわいほ たうとの 。さし。方三の たうみくら

さし 。さし たぬ 。田井し。方十たつねのきこい。くわいほ たうとの 。さし。方三の たうみくら

さし 。さし たぬ 。田井し。方十たつねのきこい。くわいほ たうとの 。さし。方三の たうみくら

さし 。さし たぬ 。田井し。方十たつねのきこい。くわいほ たうとの 。さし。方三の たうみくら

ナシト 。方二木の尾端のやちまこよ たちぶねのうけふむみち 。方二木の尾端のやちまこよ

ナシト 。方二木の尾端のやちまこよ たちぶねのうけふむみち 。方二木の尾端のやちまこよ

ナシト 。方二木の尾端のやちまこよ たちぶねのうけふむみち 。方二木の尾端のやちまこよ

ナシト 。方二木の尾端のやちまこよ たちぶねのうけふむみち 。方二木の尾端のやちまこよ

ナシト 。方二木の尾端のやちまこよ たちぶねのうけふむみち 。方二木の尾端のやちまこよ

ナシト 。方二木の尾端のやちまこよ たちぶねのうけふむみち 。方二木の尾端のやちまこよ

ナシト 。方二木の尾端のやちまこよ たちぶねのうけふむみち 。方二木の尾端のやちまこよ

ナシト 。方二木の尾端のやちまこよ たちぶねのうけふむみち 。方二木の尾端のやちまこよ

ナシト 。方二木の尾端のやちまこよ たちぶねのうけふむみち 。方二木の尾端のやちまこよ

さつりたりたうくよつりまら
たつづね 鶴之音。方寸つ
羽のけさあくちんよ 半づのゆ 新馬。日歌明傳

玉今事郡言於五年喜川系氏直官登擢馳望乃見良駒中器及壯時驚飛吉祥あ
半踐詔服帝隨心馳驟合度超度大内五之敷生十八丈焉。六とつとあきりやつるを
こゆつ礼のまよんをさはんもハ老ちてぬへ。用礼曰凡馬八尺以上あ花、
。方寸つのもをえてつうあをい。あらぬやこよゆきてこもあ

谷嘆。方寸あましくこのむらみきそしたよくのさつるきんみ。式 祈年祝相 八十号者
谷嘆 杖後植。多後サリ久、亦雅新注一名蟻蜂流又蝦蟇蓋く。らをりんんん
了信 たひつ 細約。方寸かつつり細つりほと。和鯛 多味甘冷 たりを 壘尾

考 たひつ 無毒白似御而紅鱗者。海御魚 赤女 赤鯛 たりを 壘尾

。方寸屋つるかけのり たひゆきごも 麻袋衣。方寸 魚河わらせふとわつ たりを 壘尾

き 特鼻。まふさきのもれ。史記曰馬相如著特鼻禪。和袴而無跨謂之禪 強乃乃毛り
一云知比依は毛の半岸昭云今三尺布作之形如牛鼻者也。方寸六つをさうたつさきに毛り

つふれ たまき ぶさる。方寸をいあらうも乃さうま 襪襦。方寸六つたまきか
いのい たまき 一ほららむ。日もよさぬき たまき けしあこうに。和襪

襪年 和成小見被。史記成王在洛橋之中。正多曰襪八寸長八尺用約小見於背而行襪
係也。そのよりむつきしたうひてあやあへ。和名もつき。つうのり。へいた
まきと。の。日 半襪。源 厚や 水鳥の。まをひきりひ。ま。ち。き。さ。つ。さ
ろひて。え。ま。の。襪。子。二。つ。中。ち。乃。も。ま。き。け。り。ひ。た。る。の。よ。さ。り
ら。ら。き。う。あ。の。い。の。ま。ま。き。ぬ
。方寸。た。ま。き。か。け。ら。る。い。出。る。ま。ま。き。ぬ
。方寸。た。ま。き。か。け。ら。る。い。出。る。ま。ま。き。ぬ

たのね 日 神 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢

たのね 日 神 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢

たのね 日 神 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢

たのね 日 神 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢

たのね 日 神 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢

たのね 日 神 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢

たのね 日 神 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢

たのね 日 神 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢 たいのね 鉢

アラス たいは もむ。日。日。天孫又向曰其れ秀花浪花之上死入る後而もむとせら

けねハ よた。ねるをよめこれ。むまらや。三つの子。いも

○月十是むもむ七 ○月十是むもむ七

ゆりたるるを ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

たぐも ○月十是むもむ七

千名五郎名^{○方四}つるをてちまのいほはよ
ちせちやまぬ ^{○方四}このころち

ちれちろ^{○方}ち ^{○方}ちまきまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか
ちま^{○方}ちまきまのぬぬふあか

た ちへきみ 多幸源シ。方三。とへきま ちりひち 塵土シ。方五。ちりひちのちりひ

つらん カシ。高きにこあけきんわれ ちりきさ 近隣シ。日神。近隣。方六。ろきや。まぢき ちゆみのさ さと乃。ちとやと大。ひま。か。月乃。てら。せ。

千船之泊シ。方六。たまきよ。ひら。らん。らん。と 草シ。方六。あ。り。の。ま。せ。ん。ち。う。ち。か

ちさし 方八。ちさの。さ。は。け。る。さ。り。り。山。ち。さ。の。花。よ。う。さ。う。う。う。う。ひ。お。ん

花のこたえり 伊豆。お。走。湯。山。れ。す。い。伊。豆。の。大。き

ちよ 千代。ね。之。本。シ。方。六。ま。け。を。う。ま。祢。さ。ひ。と。ち。て。さ。う

ちよ え。と。ち。よ。ま。つ。の。本。の。と。り。ち。ら。ち。く

ちよ ち。よ。ゆ。つ。乃。き

よ よ。は。は。れ。い。ろ。う。と。よ。方。六。川。の。せ。の。ゆ。を。と。り。ハ
ち 千。の。も。を。り。り。方。六。つ。う。か。と。よ。ち
ち と。り。き。を。く。た。ま。よ。く。う。ら。ら。ら。つ
ち カ。車。シ。方。四。ひ。ん。を。ち
ち か。ら。ら。ま。た。せ。る。ま。つ

猶乃孀手上終



